令和5年度 全国学力・学習状況調査 結果分析
及び 学力向上への取り組みについて

羽曳野市立古市南小学校

〔 実施日・対象学年 〕

・令和5年4月 18 日（火）
・第6学年

〔 調査内容 〕

・国語・算数 ・・・・（ア）と（イ）を一体的に出題。
（ア） 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など
（イ） 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容
・学習状況調査 ・・・ 生活習慣や学習環境に関する質問

〔 本校児童の特長と課題 〕

本校児童の特長

（国語）

・情報と情報との関係づけの仕方や、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解しているかを問われた選択式の問題は、大阪府や国の平均を上回る正答率であった。
・中心となる語や文を見つけて要約した文を選択する問題も、比較的正答率が高かった。

（算数）

・伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り表の中の知りたい数を求める問題や、比例の関係ではないことを表の中の適切な数の組を用いて説明する問題は正答率が高かった。
・正方形の意味や性質を理解しているかを問われた問題の正答率も高かった。

（学習状況調査アンケートから）

・「人の役に立つ人間になりたいと思う」の質問に対する肯定的回答は100%である。
・「自分には、よいところがあると思う」「将来の夢や目標を持っている」という肯定的回答も割合も高い。
・国語、算数ともに「勉強は大切だと思う」「学習したことが将来の役に立つ」と考える回答が多い。

本校児童の課題

（国語）

・情報と情報との関係を捉えたり、グラフなどを用いて自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫したりすることができるかどうかが問われた問題において、様々な情報の中から「原因」と「結果」などの関係を見出すことや、示された文章が「提案する文章」なのか「説明する文章」なのかなど、その文章の種類や特徴を理解することに課題がみられた。
・記述式の問題において、条件（例えば「グラフから分かること」と文章中にある「カードから分かること」の両方を書く、「解決方法について、カード⑤をもとにして書く」といった書く内容に対する条件や、「60文字以上100文字以内」といった文字制限の条件など）の全てが揃っていないために、不正解になってしまった誤答が多かった。
・多くの資料が示されたときに、複数の資料を関連付けて考えることに課題がみられた。日常的に、文章中に用いられる図表などが文章のどの部分と結びつくのかを意識しながら読み、必要な情報を見つける練習が必要である。

（算数）

・正三角形の特徴を理解した上で、問題で示されている図がどのような状態であるのか、何を問われているのかを考えて答える問題の正答率が低かった。

・高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係をもとに面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する問題の正答率が低かった。平行な2直線の間を「高さ」とした三角形は、形が違っていても高さは等しいということを理解していなかったり、高さも底辺も等しい三角形は形が違っていても面積は等しいということを理解していなかったりするため、「面積は等しい」という正答を選択できなかった。また、「面積は等しい」という選択肢を選んだが、理由を正しく書くことができずに誤答になったケースもみられた。

・3種類のファイル23人分を全部並べた長さの求め方と答えを記述する問題の正答率も低かった。一つ前の問題を参考にして解くことができること気づかずに誤答になったり、計算の答えは正しいが求め方の記述において自分が書いた式の説明を正しく書くことができずに誤答になったりしている。式をたてる時に言葉でも式の意味を理解し、その式によって何が求められるのかを考える習慣をつけることが大切である。

・一の位が0の二つの数のかけ算（50×40）について、答えを「200」とする誤答が多くみられた。確実に計算できるようにするとともに、計算後に見直しをする習慣を身につけることも大切である。

（学習状況調査アンケートから）

・自分で計画を立てて学習したり、読書をしたり、学校の授業以外に学習する（塾なども含む）時間が少ない児童の割合が高い。また、学校の授業以外の時間で読書をする時間が少ない児童も多い。

・読書や、国語、算数、英語の学習が好きであると肯定的回答をした児童の割合が低い。

[課題克服と学力向上への取り組み]

★主体的に考える力をつける

・全員が45分間の学習時間を「めあて」を意識しながら主体的に学ぶために、「めあて」を教師だけが考えて示すのではなく、前の時間の学習を振り返るなどしながら児童も含めた全員で作り上げる。

・「めあて」「考え」「まとめ」など45分の授業の流れを明示し、見通しをもって学習に望むことができるようにする。

・児童が自分の言葉で書いたり話したりする時間を保障する。

・自分の考えを友だちに説明したり、友だちの考えを聞いたりする学び合いの場面を設定し、考えがより深められるようにする。学び合う場面でのポイントを明らかにし、児童が有効的な話し合いを行うためのスキルを身につけさせる。

・自分の考えを分かりやすく書いたり、友だちに伝わるように話したりすることができるように、ノートの書き方や話し方・聞き方の指導を継続していく。算数科においては、低学年から系統立てて絵や図を用いて考えることから、図や数直線、線分図を使って考えることができるように指導する。

・児童が主体的に考える授業ができるような、指導の手立てを研究する。

★読書活動の推進と自学自習力の向上

・毎日の朝読を継続して行う。読書月間には「家読（うちどく）」の企画などを通して、家庭でも児童と一緒に読書を楽しむことなど、協力を呼びかけることは今後も継続して行っていく。

・児童が多くの様々な分野の本に触れることで読書の質を高められるように、学校司書と連携する。

・情報センターとしての図書館の役割を充実させる。学校司書と連携して、教科内容と関連した図書資料を紹介したり、調べ学習や教科横断的な発展学習につなげたりする。また、資料の見方やまとめ方についても発達段階に応じた指導を行い、資料を読み解く力やまとめる力の育成をめざす。

・自学自習力の向上をめざして、年度初めに、各学年の家庭での学習時間の目標や学習方法、望ましい生活習慣などを明記した「家庭学習啓発プリント」を引き続き配布する。配布するだけで終わらずに、学校と家庭とが連携をより密にしながら、児童が主体的・継続的に学習に取り組んでいけるよう声かけをする。

・4年生以上では自主学習の取り組みを継続する。自主学習の仕方プリントを配布し、取り組みのヒント・ガイドにしたり、工夫されているノートを紹介し、より多くの学習方法を取得していくきっかけにしていく。